



毛 沢 東 選 集

第 二 卷

毛 沢 東 選 集

第 二 卷

外 文 出 版 社

北 京

毛沢東選集 第二卷

1968年 初版発行
1977年 初版第三刷発行

定価 1200円(上)
500円(並)

出版者

外文出版社
(北京阜成門外百万莊)

発行者

中国国際書店
(北京 P. O. Box 399)

编号: (日) 1050—675

1—J—888

00330

00220

本訳書は北京人民出版社一九六四年九月出版の『毛沢東選集』第一巻から第四巻までの完訳である。各論文の解題と訳釈もこの版から訳出したものである。

訳釈は原注と訳注にわかれ、原注は漢数字を「」でかこみ、各論文の末尾においた。訳注は訳者がくわえたもので、算用数字を○でかこみ、原注のあとに書いた。

度量衡、通貨、行政区画については、一部をのぞいてすべて原文のままの単位を用い、訳注を付した。

目次

抗日戦争の時期（上）

日本の進攻とたたかう方針、方法および前途（一九三七年七月二十三日）	3
一 二つの方針	4
二 二つの方法	7
三 二つの前途	13
四 結論	13
すべての力を動員して抗戦の勝利を	
かちとるためにたたかう（一九三七年八月二十五日）	17
自由主義に反対する（一九三七年九月七日）	27
国共合作成立後のさしせまった任務（一九三七年九月二十九日）	31
イギリスの記者バートラムとの談話（一九三七年十月二十五日）	47

中国共産党と抗日戦争	47
抗日戦争の状況と教訓	48
抗日戦争における八路軍	54
抗日戦争における投降主義	59
民主制度と抗日戦争	60
上海、太原陥落後の抗日戦争の情勢と任務（一九三七年十一月十二日）	67
一 当面の情勢は一面的抗戦から全面的抗戦への過渡期にある	67
二 党内でも全国でも投降主義に反対しなければならない	72
党内では、他階級にたいする階級的投降主義に反対する	72
全国では、他民族にたいする民族的投降主義に反対する	78
階級的投降主義と民族的投降主義との関係	80
陝西・甘粛・寧夏辺区政府、第八路軍後方留守本部布告（一九三八年五月十五日）	87
抗日遊撃戦争の戦略問題（一九三八年五月）	93
第一章 なぜ遊撃戦争の戦略問題を提起するのか	93
第二章 戦争の基本原則は自己を保存し敵を消滅することである	96

第三章	抗日遊撃戦争の六つの具体的戦略問題	97
第四章	防衛戦中の進攻戦、持久戦中の速決戦、内線作戦中の 外線作戦の主動的、彈力的、計画的実行	98
第五章	正規戦争との呼応	110
第六章	根拠地の樹立	112
第一節	いくつかの種類 of 根拠地	114
第二節	遊撃区と根拠地	117
第三節	根拠地樹立の条件	120
第四節	根拠地の強化と発展	123
第五節	敵と味方のあいだのいくつかの種類 of 包圍	124
第七章	遊撃戦争の戦略的防衛と戦略的進攻	126
第一節	遊撃戦争の戦略的防衛	127
第二節	遊撃戦争の戦略的進攻	131
第八章	運動戦への発展	133
第九章	指揮関係	136

持久戦について（一九三八年五月）

問題の提起

問題の根拠

亡国論を反ばくする

妥協か抗戦か、腐敗か進歩か

亡国論はまちがつており、速勝論もまちがつている

なぜ持久戦なのか

持久戦の三つの段階

犬鹵錯綜した戦争

永遠の平和のために戦おう

戦争における能動性

戦争と政治

抗日のための政治的動員

戦争の目的

防御のなかでの進攻、持久のなかでの速決、内線の中の外線

206 203 200 199 196 192 188 176 172 169 164 159 154 143 143

主動性、弾力性、計画性	211
運動戦、遊撃戦、陣地戦	224
消耗戦、殲滅戦	230
敵のすきに乘ずる可能性	235
抗日戦争における決戦の問題	238
兵士と人民は勝利のもとである	242
結論	248
民族戦争における中国共産党の地位（一九三八年十月）	259
愛国主義と国際主義	260
民族戦争における共産党員の模範的役割	262
全民族の団結と、民族内部の敵のまわし者にたいする闘争	265
共産党の拡大と、敵のまわし者の潜入防止	265
統一戦線の堅持と党の独立性の堅持	266
全局に氣をくばり、多数に氣をくばり、同盟者といっしよに仕事すること	268
幹部政策	269

党の規律 272

党内民主主義 273

わが党はすでに二つの戦線での闘争をつうじて強固になり、強大になった 274

二つの戦線での当面の闘争 277

学習 278

団結と勝利 281

統一戦線における独立自主の問題（一九三八年十一月五日） 285

援助と譲歩は消極的でなく、積極的でなければならない 286

民族闘争と階級闘争の一致性 287

「すべては統一戦線を通じて」というのはまちがいである 288

戦争と戦略の問題（一九三八年十一月六日） 291

一 中国の特徴と革命戦争 292

二 中国国民党の戦争史 297

三 中国共産党の戦争史 300

四 国内戦争と民族戦争における党の軍事戦略の転換 302

五 抗日遊撃戦争の戦略的地位	306
六 軍事問題の研究に注意すること	309
五・四運動（一九三九年五月）	315
青年運動の方向（一九三九年五月四日）	319
投降の策動に反対せよ（一九三九年六月三十日）	333
反動派を制裁せよ（一九三九年八月一日）	341
新しい国際情勢についての新華日報記者との談話（一九三九年九月一日）	349
中央通信社、掃蕩報、新民報の三記者との談話（一九三九年九月十六日）	359
ソ連の利益と人類の利益との一致（一九三九年九月二十八日）	369
『共産党人』発刊のことば（一九三九年十月四日）	383
当面の情勢と党の任務（一九三九年十月十日）	401
知識人を大量に吸収せよ（一九三九年十二月一日）	405
中国革命と中国共産党（一九三九年十二月）	409
第一章 中国社会	409

第一節	中華民族	409
第二節	古代の封建社会	412
第三節	現代の植民地・半植民地・半封建の社会	415
第二章	中国革命	422
第一節	百年來の革命運動	422
第二節	中国革命の对象	423
第三節	中国革命の任務	428
第四節	中国革命の原動力	429
第五節	中国革命の性質	441
第六節	中国革命の前途	445
第七節	中国革命の二重の任務と中国共産党	447
スターリンは中国人民の友である（一九三九年十二月二十日）		455
ベチューンを記念する（一九三九年十二月二十一日）		459
新民主主義論（一九四〇年一月）		463
一 中国はどこへいく		463

二	われわれは新中国をうちたてる	464
三	中国の歴史的特徴	465
四	中国革命は世界革命の一部分である	463
五	新民主主義の政治	476
六	新民主主義の経済	484
七	ブルジョア独裁を反ばくする	485
八	「左」翼空論主義を反ばくする	492
九	頑迷派に反ばくする	495
一〇	旧三民主義と新三民主義	499
一一	新民主主義の文化	507
一二	中国文化革命の歴史的特徴	510
一三	四つの時期	513
一四	文化の性質の問題についての偏向	519
一五	民族的、科学的、大衆的な文化	522
	投降の危険を克服し、時局の好転をたたかおう（一九四〇年一月二十八日）	531

すべての抗日勢力を結集して反共頑迷派に反対しよう（一九四〇年二月一日）	537
国民党にたいする十項目の要求（一九四〇年二月一日）	547
『中国工人』発刊のことば（一九四〇年二月七日）	557
団結と進歩を強調しなければならない（一九四〇年二月十日）	561
新民主主義の憲政（一九四〇年二月二十日）	565
抗日根拠地の政權問題（一九四〇年三月六日）	581
当面の抗日統一戦線における戦術の問題（一九四〇年三月十一日）	587
おもいきって抗日勢力を發展させ、	
反共頑迷派の進攻に抵抗せよ（一九四〇年五月四日）	601
あくまで団結しよう（一九四〇年七月）	611
政策について（一九四〇年十二月二十五日）	617
安徽省南部事変について発表した命令と談話（一九四一年一月）	629
中国共産党中央革命軍事委員会命令	629
中国共産党中央革命軍事委員会スポークスマンの新華社記者にたいする談話	630

二回目の反共の高まりを撃退した後の時局（一九四一年三月十八日）
 二回目の反共の高まりの撃退についての総括（一九四一年五月八日）

647 641

抗日戦争の時期（上）

